

令和7年 お茶づくり技術情報 (No.3)

2025年4月1日
佐賀県茶業技術協会
佐賀県茶業試験場

1. 気象と生育

1) 一番茶の萌芽

(1) 茶業試験場内の作況調査園（定点調査園、品種：やぶきた）において、3月28日に萌芽期を迎え、前年3月30日より2日早く、前5か年平均3月28日と同等の萌芽期となった。

(2) また、茶業試験場内のさえみどりは、3月27日に萌芽期を迎えた。

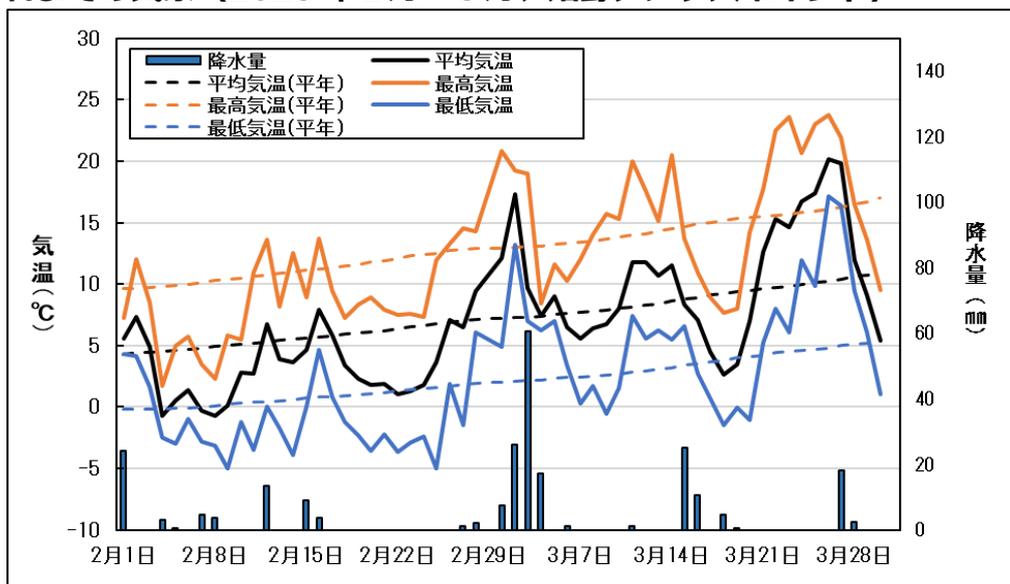


写真1 やぶきたの一番茶芽
(撮影：2025年3月28日)



写真2 さেমいどりの一番茶芽
(撮影：2025年3月27日)

2) これまでの気象 (2025年2月～3月、嬉野アメダスポイント)



- (1) 平均気温は、2月は3.4℃(平年5.6℃)、3月は10.4℃(平年8.9℃)であった。
- (2) 3月に0℃を下回ったのは、9日(-0.6℃)・18日(-1.5℃)・20日(-1.1℃)・31日(-1.7℃)であった。
- (3) 3月の降水量は、上旬112.0mm(平年比252%)、中旬41.5mm(平年比79%)、下旬20.5mm(平年比37%)であった。

3) 今後の気象の見通し

■ 1か月予報 (気象庁、2025年3月27日発表)

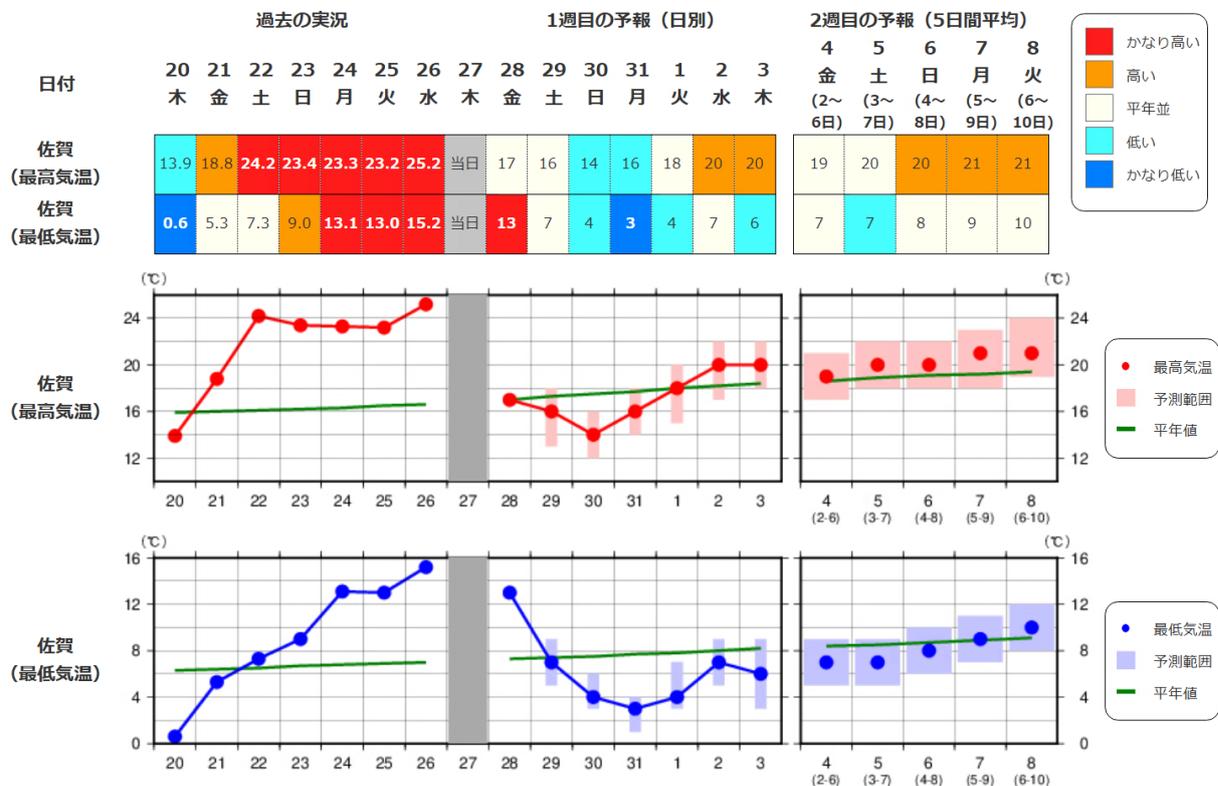
向こう1か月の天候の見通し

九州北部地方 (山口県含む) (3/29~4/28)

	平均気温 (向こう1か月)	降水量 (向こう1か月)	日照時間 (向こう1か月)
九州北部地方 (山口県含む)	低30 並30 高40% ほぼ平年並の見込み	少40 並40 多20% 平年並か少ない見込み	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み

- (1) 向こう1か月の気温について、1週目は寒気の影響で気温が低くなるが、2週目は暖かい空気に覆われやすいため気温が高くなり、期間の前半は気温の変動が大きいと予想される。
- (2) 向こう1か月の降水量は、低気圧や前線の影響を受けにくい時期があるため、平年並か少ない見込み。

■ 2週間予報 (気象庁、2025年3月27日更新)



今後の生育予測や防霜対策、被覆時期の調整に気象庁の予報サイトを活用しましょう！



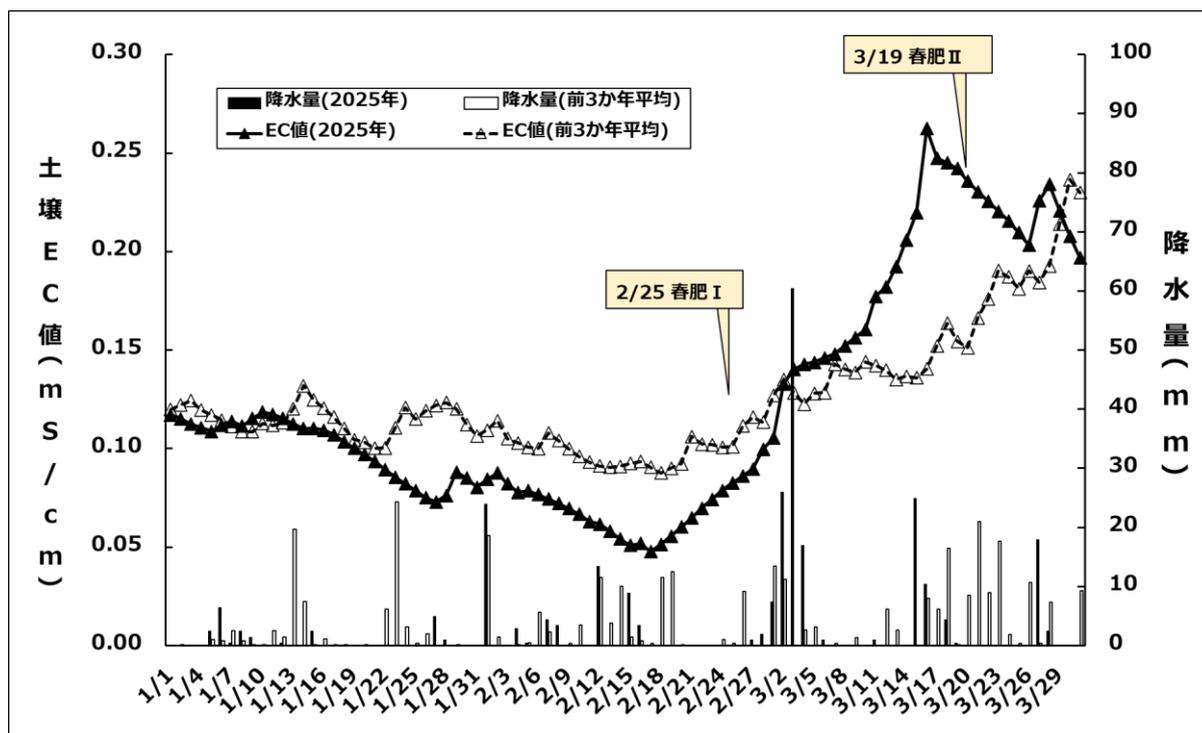
1か月予報 (九州北部)



2週間予報 (佐賀県)

2. 今後の管理

1) 施肥管理



注) 本年の土壤 EC 値は、雨落ち部の深さ 25 cm 部分に埋設した土壤センサーにて測定し、実測値に基づき推定した値を示す

- (1) 土壤 EC は、春肥 I 施用後の降雨によって大きく上昇している。春肥 II 施用後は晴天が続き低下していたものの、27 日の降雨で再度、一時的に上昇した。
- (2) 芽出肥の施用は一番茶摘採の 30~40 日前を基本とし、施肥後は土壤と混和する。
- (3) 分施する場合は、2 回目の速効性肥料（硫安など）を摘採 14 日前頃（2 葉期）に施用する。

2) 被覆管理

- (1) 資材は、遮光率 70%程度で、穴・汚れ・異臭のないものを使用する。
- (2) 被覆開始は、基本的に 2.5~3.0 葉期とし、被覆期間は 10 日間程度とするが、新芽の葉数や生育速度を考慮し、摘採時期より判断する。極端な若芽への被覆は減収につながるため避ける。また、高温等で生育が進むことが予想される場合には早めの被覆を心掛ける。
- (3) 直前の気象条件により新芽生育は異なるため、気象庁の 2 週間気温予報の確認、茶園巡回で芽の観察をこまめに行うなど、適期の被覆開始となるように心がける。
- (3) 被覆後は、風による煽りや擦れによる葉傷みが発生しないように、資材の固定を確実にを行う。
- (4) 被覆資材の除去は、摘採の直前が望ましく、新芽がなるべく日光にあたる時間を少なくし、色戻りを避ける。除去時は持ち上げるように外し、葉を傷めないようにする。

3) 凍霜害発生後の対策

被害を受けた茶園は、摘採時期の遅れや、収量減少が予測される。茶園の状態を良く観察した上で、以下の対策を行う。

(1) 被害後の整枝処理

- ・ 整枝処理の目的は、摘採した生葉への被害葉の混入を防ぐことである。
- ・ 新芽の生育状況に応じて、そのまま放置するか整枝処理するかを判断する(下表参照)。
- ・ 3月31日の凍霜害は、ほとんどの茶園が新芽生育初期(萌芽～2葉開葉未満)の被害のため、基本的には被害の程度にかかわらず、そのまま放置し、その後伸びてきた新芽を摘採する。
- ・ 被害部除去の整枝は、過度に行うと減収につながるため、注意が必要となる。

生育ステージ	被害程度	対応策	
萌芽期～ 2葉開葉未満		被害の程度にかかわらず、そのままにしておく	
2葉開葉～ 4葉開葉	1)部分的で被害部と無被害部がはっきりしている場合	そのままにしておき、拾い摘み、または部分摘採を行う	
	2)部分的で被害部と無被害部がはっきりしない場合	①被害芽率が低い場合	そのままにしておく
		②被害芽率が高い場合	被害部を除く程度に軽く整枝する
	3)被害が全面的の場合	被害部を除く程度に軽く整枝する	
摘採期直前	1)被害が部分的の場合	拾い摘み、または部分摘採する	
	2)被害が全面的の場合	刈り捨てて二番茶の生育を待つ	



萌芽期～2葉開葉未満

そのまま放置する



平均して2葉開葉以上で被害率が高いか、全面的な場合

被害部を除く程度に軽く整枝

(2) 凍霜害後の病害虫防除

- ・凍霜害後はハダニの密度が高まる傾向があるため、茶園を良く観察し、発生が確認されたら、摘採前使用日数に注意して防除を行う（3. 病害虫対策の項を参照）。

(3) 施肥

- ・芽出し肥施用直後であれば、追肥の必要はない。
- ・芽出し肥をまだ施用しておらず、被害が甚だしく摘採が大幅に遅れそうな場合には、再萌芽を待って、施肥を行う。